

平成25年9月2日

玉城町議会議長 風口 尚 様

教育民生常任委員会
委員長 山本 静一

教育民生常任委員会行政視察報告書

当委員会所管に係る事項について行政視察を実施いたしましたので下記のとおり報告いたします。

1. 日 時 平成25年7月29日(月)～7月30日(火)
2. 視 察 先 長野県上田市及び伊那市
3. 調査内容 ◆上田市・子育て支援施設「ゆりかご」について
・病児・病後児保育事業について
◆伊那市・地域見守りネットワーク事業について
4. 参 加 者 山本静一 北川雅紀 川西元行 中瀬信之
坪井信義
5. 随 行 者 辻村修一 中村元紀 小林一雄 藤井亮太

6. 視察研修の概要

(1) 上田市の概要

人 口	159,525人	面 積	552 km ²
歳 入	73,282百万円	歳 出	70,031百万円
基 金	16,790百万円	公債費	68,429百万円

①子育て支援施設「ゆりかご」

ア 目的

核家族など家庭の生活・育児支援が受けられない産後の母子を対象とし、育児不安・産後の肥立ちが思わしくない母親を支援する。

母親と子どもと一緒に施設で宿泊し、心身の回復・授乳指導・育児相談を行なう子育て支援施設「ゆりかご」設置。

イ 利用概要

- ・利用期間 原則6泊7日
- ・利用定員 母子2組
- ・利用料 1日 3,000円(食事別)
- ・部屋の設備 シャワー・洗面所・トイレ
- ・運営 シルバー人材センターに委託(日勤1名、夜勤1名)
- ・運営費 利用料と一般会計の繰り入れ

ウ 利用実績(平成12年～平成24年)

- ・利用者 227人(年間平均17名)
- ・同伴者 56人(年間平均4名)
- ・延べ利用日数 1,666日(年間平均128日)

エ まとめ

マスコミ等で母親が育児に悩み問題が生じているなか、出産後に母子が施設に入り心身回復・授乳指導・育児相談等に取り組むユニークな政策である。

子育て支援は人口増加策の大きな要素であり、今後、施設設置の要望があれば当町として単独設置が、無理なら、伊勢市を核とした定住自立圏内で協議検討するのも一策である。

②病児・病後児童保育事業

ア 目的

児童が治療中または回復期にあり、集団保育および保護者の看護が困難な場合、一時預かり、保護者の支援と児童の健全な育成を図る。

イ スタッフ

看護師 1名 保育士 1名

ウ 利用概要

- ・利用期間 月～金曜日(原則7日間)
- ・利用時間 午前8時～午後6時
- ・利用料 1日 1,000円
- ・定員 6人(4部屋)

エ まとめ

病児保育は保護者にとっては頭を抱える問題であり、核家族で父母が働らいてる家庭は深刻な悩みです。時代に即した「子育て」支援の有効な手段であると思う。

玉城町も既に伊勢市に「病児保育エンゼル」を設置し、取り組んではいるが、委託事業でなく町立病院を利用した事業として取り組む事を提案する。

(2) 伊那市の概要

人 口	70,726人	面 積	667.81k m ²
歳 入	32,865百万円	歳 出	31,682百万円
基 金	7,123百万円	公債費	35,444百万円

①見守りネットワーク事業

ア 目的

市と48民間事業所が連携し、「地域見守りネットワーク事業に関する協定書」を締結し、高齢者の異変を見つけたら市に通報し、高齢者が安心して生活できるように支援する。

郵便局	5局	新聞販売店	10店
宅配便	5事業所	弁当業者	3事業者
ガス事業者	24店	電気・水道業者	2業者

イ 実績

平成25年1月30日付けで事業者と協定書を締結し、7件の通報実例があり、うち3件が体調不良等で入院しており即、効果を発揮している。

ウ まとめ

特徴は日頃、住民と接する機会が多いと思われる各事業者と連携し、幅広い視線で実施していることである。

また、新聞・郵便物等が滞留している「外見から見る異変」と顔色が優れない、生気が乏しい等の「対象者の姿等からみる異変」二通りで、日常の生活状況把握につとめている。

民間業者の理解があれば容易に実施できるシステムで、費用はほとんど必要とせず、少ない労力で大きな効果が期待できる。

当町も早急に取り組むことを提案する。